

SD & Quantum V2025 Release Notes

2025 年 3 月

■目次

1.0 Fourier transform.engine - コントロールの連携3								
1.0.1 セッション と スナップショット の連携4								
1.0.2 コンソールインターフェースからプラグインパラメーターを調整する								
1.0.3 複数のコンソール間で transform.engine を共有する6								
1.1 Mustard Source Expander (MSE)6								
1.2 Sound Devices Astral Control								
1.3 Quantum 225 のシアターバージョンへの拡張9								
1.4 エラーの修正								

1.0 Fourier transform.engine - コントロールの連携

Fourier Audioのtransform.engineがQuantum コンソール(Q8/Q7/Q5/Q3/Q2)からコントロールできるようになりました。

コントロールの連携には2つの側面があります。

- Transform Plugin Teleporting (Quantum コンソール上でのプラグインインターフェースの表示とコントロール)
- Transform Session と Snapshot の連携

Transform Plugin Teleporting は、コンソールの Enable Fourier Integration オプションで有効になり、有効にする と、Enable Sessions and Snapshot Control オプションもオプションとして表示される。

注意: Fourier Audio と Waves の連携を同時に有効にすることはできません。

この連携機能を有効にするには:

- コンソールのイーサネットポートと transform.engine の control ポートをイーサネットケーブルで接続します。
- コンソールの Options > Console タブで、Enable Fourier Integration を Yes に設定し、Settings ボタンを押し て設定パネルを開きます。
- transform.engineのcontrolポートのIPアドレスを入力し、イーサネット接続に使用するコンソールネットワークアダプターを指定します。IPアドレスを変更した後は,コンソールの電源を切る必要があります。

注意:transform.engine はコンソールと同じサブネットにしなければいけません。

 Transform オーディオインターフェースに使用する Audio IO ポートを選択します。通常は DMI-Dante 64@96 カードか、内蔵の Fourier Interface Card のどちらかになります。Audio I/O パネルで選択したポートの横に Fourier Audio のロゴが表示されます。



1.0.1 セッション と スナップショット の連携

transform.engine 上では、特定のコンソールセッションに関連する 2 つのバージョンの showfile が存在することに注意してください。一方には _autosave という接尾辞が付き、もう一方には付きません。

"session name_autosave " と ラ ベ ル 付 け さ れ た showfile の バ ー ジ ョ ン は、transform.engine が オ ー ト セーブを実行するときに自動的に作成され、変更が加えられると継続的に更新されます。コンソールの Option > Console > Enable Fourier Sessions and Snapshot Control が「Yes」に設定されている場合、コンソー ル自身がセッションを保存するたびに、単に「セッション名」とラベル付けされたバージョンが保存されます。

別の transform.engine にバックアップ / 転送するために Transform showfile をリムーバブル USB ドライブに保存す る場合は、必ず _autosave 接尾辞のないバージョンの showfile を**エクスポート**してください。これは、同じ名前を持 つコンソール セッションに関連付けられます。スタンドアローンのコンピューターで実行されている transform.client アプリケーションで、System に移動し、リストから showfile を選択して **Export Showfile** を押し、保存先を選択し て確定します。

以下の状況を考慮する必要があります:

既存のコンソールセッションも Transform showfile もない場合

Default All Session Restructure がコンソールで行われたと仮定すると、新しいコンソールセッションを保存する前に、 transform.engine は "_default "という名前の空白の showfile を作成します。

コンソールにセッションが保存されると、transform.engine は同じ名前のファイルも保存し、それを現在の showfile とします。表示される showfile 名は "sessionname_autosave "となります。

コンソールセッションは作成しているが、一致する Transform showfile がない場合

コンソールセッションがロードされ、transform.engine に同じ名前の showfile がない場合、transform.engine にコン ソールセッションと同じ名前のデフォルトの showfile を作成し、DiGiCo Cuelist を作成します。このキューリストには、 コンソールセッションファイルのスナップショットと一致するスナップショットが入力されます。

コンソールまたはリムーバブルドライブ上にコンソールセッションがあり、それと一致する Transform showfile があ る場合

Transform showfile を transform.engine にインポートします。showfile 名がコンソールセッションのファイル名と完 全に一致していることを確認してください。一致しない場合は、標準のファイルブラウザではなく、transform.client 内で **Rename Showfile** を使って変更する必要があります。ショーファイルが以前に DiGiCo コンソールとの連携で使 用され、「_autosave 」という接尾辞がついていた場合、コンソールと再び同期するためには、ショーファイル名からこ れを削除する必要があることに注意してください。transform.client にインポートし、セッション名を確認したら、コ ンソールにセッションをロードします。セッションがコンソールにロードされると、同じ名前の transform showfile を 探し、これを transform.engine にロードします。

Fourier との連携をオフにして行われたコンソールセッションの場合、その後それが有効になっても、デフォルトでは、 ユーザーが有効にするまで、Fourier Transform ユニットに対するコンソールの個々の Snapshot Recall Scope はがア クティブにならないことに注意してください。これは、**Snapshots** パネルの Edit Range 機能を使用することで、すべ てのスナップショットに対してすぐに有効にすることができます。

transform.client から transform.engine 上の異なるセッションをロードしたり、スナップショットリストに変更を 加えたりすることが可能であるため、コンソールと transform.engine の間で同期が取れなくなる可能性があります。 transform.engine のセッションとスナップショットがコンソールと同期しなくなったことをコンソールが検出すると、 セッションとスナップショットの連携を一時停止します。一時停止すると、Fourier パネル上部にメッセージが表示さ れます。セッションとスナップショットの連携を再同期して再開するには、コンソールセッションをリロードするか、 Fourier > Settings の Re-synchronise Snapshots ボタンを押す必要があります。

'%'DiGiCo

1.0.2 コンソールインターフェースからプラグインパラメーターを調整する

Transform Plugin Teleporting(コンソール上でのプラグインインターフェースの表示とコントロール)のために、ルー ティングされたコンソールの Transform オーディオインターフェイスのソケット番号(通常は Dante オーディオ)は、 Transform プラグインチェーンで使用されているのと同じ番号のソケットに関連付けられています。Dante Controller の transform.engine とのパッチングは、一対一で行う必要があることに注意してください。

例えば、コンソールチャンネル1がインサートセンドとリターンのルーティングを Transform インターフェースのソケットインプット1とアウトプット1に割り当てている場合、このチャンネルを選択 / ソロすると、同じ番号のソケットルートを持つ Transform プラグインチェーンが表示されます。デフォルトでは、これがプラグインチェーン1となります。

transform.engine とのすべてのルーティングが設定されると、3 つの方法で Fourier パネルを開くことができます。

- **Processors > Fourier** を押して Fourier パネルを開きます。
- チャンネルストリップの transform.engine にルーティング されたインサートをタップします。
- transform.engine にルーティン グされたインサートまたはアウトプットがあるチャン ネルをソロにします。これ は、Options > Solo にある Solo Displays Insert and Output オプションに従います。

プラグインのパラメーターは、コンソールに接続されたタッチスクリーンまたはマウスでコントロールできます。**互換 性のあるプラグインであれば、コンソールの Fourier プラグイン・インターフェースのコントロールにタッチし、コン ソールのワークサーフェスのタッチターン・エンコーダーを使ってコントロールすることもできます。**プラグインがタッ チターンに対応していない場合は、コンソールのプラグインリスト表示の上部に表示されます。この場合でも、一般的 にコントロールは画面タッチで操作できるはずです。

下記 Fourier Audio 公式 Web より、各社のプラグイン操作対応状況が確認できます。 Fourier Audio - Plugin Database Testing Status https://plugins.fourieraudio.com/

パネルの左側には、チェーン内のすべてのプラグインのリストがあります。プラグインをタップすると表示されます。 リストのプラグインの横にアイコンが表示され、バイパス中やリロード中など異なる状態を示すことがあります。

左側のプラグインリストは、下部にある「Collapse」または「Expand」ボタンで折りたたんだり広げたりできます。こ れにより、プラグインビューアのサイズが大きくなり、プラグインのサイズも大きくなります。



1.0.3 複数のコンソール間で transform.engine を共有する

複数のコンソールが同じ transform.engine に接続することは可能です。1つの transform.engine を複数のコ ンソールで共有する場合(たとえば、FOH とモニターがそれぞれ独自のチェーンを使用する場合)、transform. engine のセッションとスナップショットを担当するコンソールは1つだけにしてください。このコンソールは、 **Option > Console > Enable Fourier Sessions and Snapshot Control** を **Yes** に設定してください。他のすべて のコンソールは、このオプションを **No** に設定してください。

ミラーリングされたコンソールやエンジンのセット(例えば、Quantum7やQuantum852のエンジンAとB)が同じ transform.engine に接続されている場合、両方のコンソールやエンジンで Enable Fourier Sessions と Snapshot Control を Yes に設定することができます。この設定では、transform.engine はオーディオマスターに設定されているコンソールまたはエンジンのセッションとスナップショットコマンドに従います。これらのエンジンの1つが transform.engine と通信できなくなった場合、transform.engine は、オーディオマスターのステータスに関係なく、接続されている唯一のコンソールを待ち受けます。

1.1 Mustard Source Expander (MSE)

Quantum エンジンの Mustard Dynamics 2 には、Mustard Source Expander と呼ばれる新しいプロセッサタイプがあります。



MSE は、信号がスレッショルド(閾値)を下回ると、一定量だけレベルを下げます。これはゲートに少し似ていますが、ボーカルやブラスのような非一過性の信号に適しています。シンガーが歌うのを止めたときにレベルを下げることで、フィードバックの可能性を減らし、オープンマイクにこぼれるステージノイズのレベルを全体的に下げることができます。コントロールはスレッショルド、デプス(最大 40dB)、リリース・レートです。サイドチェインも可能です。 Type ボタンを押し、Mustard Dynamics 2 モジュールを選択し、オプションリストから MSE を選択します。

***DiGiCo

1.2 Sound Devices Astral Control

Sound Devices のトランスミッターは、A20 TX ベルトパックのマグネットスイッチや、新しい A20- ハンドヘルドトラ ンスミッターの各種コントロールリングなど、革新的なコントロールオプションを備えています。新しい Astral External コントロール・デバイス・オプションを使えば、3 つのレシーバーのどれを使用していても、Macro をトランスミッター から直接トリガーするようにプログラムすることができます。

コンソールで Astral コントローラーを設定するには、まず外部コントロールに移動し、add device(デバイスの追加)-> Astral を選択します。

External Control										
	En	able External (Control: YES	HUI sensing	Suppress OSC retransmit					
Char	inel Cor	ntrollers: ge	DSC L-ISA da	šb A	KFM Spacemap wit	Recall h session				
KLANG Interface: KLANO enabled with session for the session Enable Mapped Channels for the session for the session										
Exter	nal Devi	ces			add device remove de	evice				
	Туре	Name	IP Address	Send	DiGiCo Pad bled Bundles	DevID 1				
0K	Astral	Nexus 1	192.168.1.99	6414	other OSC	1-A				
					KLANG					
_				_	MIDI					
				_	HUI MIDI					
					Ross Audio					
	-	2			Macro OSC					
					Astral					
Loc	al: DIC	G-HD-CH053	IP: 0.0.0.0 Si	ubnet 0. mands a	0.0.0 Illowed: clear all ic	bad				

Sound Devices ハードウェアとコンソールの IP アドレスを確認してください。

コンソールの IP は External Control パネルで、Astral の IP は Network メニューの Control IP ヘッダーで確認できます。 コンソールの External Control で、IP アドレスを入力してください。Astral との統合を使用する場合、送受信ポートが 固定されていることに注意してください。



Astral デバイスで、コンソール IP を入力します。これは、以下の方法で行うことができます:

Menu -> System -> Macros -> DiGiCo Console List

次に、デバイス ID を設定します。ネットワーク上に最大 5 組のリダンダントボックス、または 15 台のシングルボック スを設定することができます。

'%'DiGiCo

たとえば、2 台の Nexus ボックスと 2 台のコンソール / エンジンがあるシステムでは、すべてのデバイスに関連する IP アドレスを設定し、両方のコンソールで各 Nexus ボックスを 1-A と 1-B に設定します。

		External Cor	itrol					CLOSE	
Enable External Control: YES Hujj Suppress OSC retransmit									
Channel Cor	ntrollers: 0: gen	SC L-ISA d8	ib A	FM	Spacem	пар	Recall with sessi	on	
KLANG Interface: KLANG Recall with session (1-A 1-B 2-A 2-B Channels Channels 3-A 3-B									
External Devi	ces	1		ac	4-A 5-A	4-8 5-8	levice		
Astral	Name Nexus 1	IP Address 192.168.1.99	6414	6	6 7 8 5 1	3 7 3 9	1-A		
Local: DIG	G-HD-CH053	IP: 0.0.0.0 Su com	ubnet: 0.0 mands a	0.0.0 Ilowe	d: clea	rali	load		

すべてのデバイスに IP アドレスを設定したら、External Control でデバイスを有効にします。

Astral デバイスに Macro が設定されている場合、Device と Command ID の両方を選択することができます。 Command ID は Astral の関連 Macro の OSC ID と一致させる必要があり、Device は単に External Control で設定さ れた DevID と一致させます。

fre macro macro name Input Channels Ausz outputs finde					Macro E	ditor						
command types commands mute fund hput Channels mute find	fire macro mame Input Channels							Assigned to: /				
Commander types Commander Solution Control from to Control ler value Input Channels Input Channels 1 12 mute On insert Group Outputs fade-mule safe Input Channels 1 12 mute On insert Monitoring Aux X KLANG unmute Input Channels 1 12 mute On insert Taikback Outputs Aux X KLANG unmute Input Channels 1 12 Input Channels Input Channels<	semmend hunge use commas to separate lines on button labels											
Input Channels Input	command types		Commands Q mote		channel type		from	to	controller	value		(capture
Aux Outputs hard mule insert Group Outputs fade-mute safe insert Montoring Aux 1 KLANG unmute insert Takback Outputs Aux 2 KLANG unmute insert Aux 3 KLANG unmute insert insert Sole Aux 4 KLANG unmute insert insert Sole Aux 4 KLANG unmute insert insert Takback Input Aux 5 KLANG unmute insert insert Matrix Outputs Aux 6 KLANG unmute insert insert Matrix Outputs Aux 7 KLANG unmute insert insert Matrix Outputs Aux 7 KLANG unmute insert insert Matrix Outputs Aux 8 KLANG unmute insert insert Matrix Outputs Aux 8 KLANG unmute insert insert Spice Rack Aux 10 KLANG unmute insert keys insert external insert insert advanced Graphic EQ Aux 10 KLANG unmute GPI Device Command Jayout Aux 12 KLANG unmute OSC Insert Insert	Input Channels		mute		Input Channels	1	1	12	mute	on		
Group Outputs fade-mute safe Monitoring Aux 1 KLANG unmute Takback Outputs Aux 2 KLANG unmute Aux 3 KLANG unmute Aux 3 KLANG unmute Aux 4 KLANG unmute Image: Control Groups Sole Aux 4 KLANG unmute Aux 4 KLANG unmute Image: Control Groups Sole Aux 4 KLANG unmute Aux 5 KLANG unmute Image: Control Groups Matrix Inputs Aux 6 KLANG unmute Matrix Outputs Aux 7 KLANG unmute Graphic EQ Aux 8 KLANG unmute Spice Rack Aux 10 KLANG unmute System Aux 11 KLANG unmute Layout OSC Uriwing Image: Control Groups	Aux Outputs		hard mute									(insert
Montoring Aux 1 KLANG unmute Takback Outputs Aux 2 KLANG unmute Control Groups Aux 3 KLANG unmute Aux 3 KLANG unmute Aux 3 KLANG unmute Aux 4 KLANG unmute Image: Control Groups Solo Aux 4 KLANG unmute Aux 4 KLANG unmute Image: Control Groups Aux 4 KLANG unmute Image: Control Groups Aux 4 KLANG unmute Image: Control Groups Aux 5 KLANG unmute Image: Control Groups Matrix Outputs Aux 7 KLANG unmute Matrix Outputs Aux 7 KLANG unmute Graphic EQ Aux 8 KLANG unmute Spice Rack Aux 10 KLANG unmute System Aux 11 KLANG unmute Filing Aux 11 KLANG unmute Layout OSC Viewing Image: Control Groups	Group Outputs		fade-mute safe									(remove
Takback Outputs Aux 2 KLANG unmute Control Groups Aux 3 KLANG unmute Aux 3 KLANG unmute Aux 4 KLANG unmute Aux 4 KLANG unmute Aux 5 KLANG unmute Aux 5 KLANG unmute Aux 7 KLANG unmute Matrix Outputs Aux 7 KLANG unmute Matrix Outputs Aux 7 KLANG unmute Graphic EQ Aux 8 KLANG unmute Spice Rack Aux 10 KLANG unmute System Aux 11 KLANG unmute Filing Aux 12 KLANG unmute Viewing OSC	Monitoring		Aux 1 KLANG unmute									
Control Groups Aux 3 KLANG unmute Solo Aux 4 KLANG unmute Aux 4 KLANG unmute Aux 5 KLANG unmute Aux 5 KLANG unmute Aux 6 KLANG unmute Matrix Outputs Aux 7 KLANG unmute Matrix Outputs Aux 7 KLANG unmute Graphic EQ Aux 8 KLANG unmute Spice Rack Aux 10 KLANG unmute System Aux 11 KLANG unmute Hairow 12 KLANG unmute OSC Uriwing Unmute	Talkback Outputs		Aux 2 KLANG unmute					1				value +
Solo Aux 4 KLANG unmute Takback Input Aux 5 KLANG unmute Matrix Inputs Aux 6 KLANG unmute Matrix Outputs Aux 7 KLANG unmute Matrix Outputs Aux 7 KLANG unmute Graphic EQ Aux 8 KLANG unmute Spice Rack Aux 10 KLANG unmute Aux 10 KLANG unmute Aux 11 KLANG unmute Hairon 1 Image: Command 1 Viewing OSC	Control Groups		Aux 3 KLANG unmute									10
Takback input Aux 5 KLANG unmute Matrix Inputs Aux 6 KLANG unmute Matrix Outputs Aux 7 KLANG unmute Graphic EQ Aux 8 KLANG unmute Spice Rack Aux 10 KLANG unmute Aux 10 KLANG unmute Aux 11 KLANG unmute Aux 11 KLANG unmute Aux 11 KLANG unmute Viewing OSC	Solo		Aux 4 KLANG unmute		-				1.0			12
Matrix Inputs Matrix Outputs Aux 7 KLANG unmute Aux 7 KLANG unmute Aux 8 KLANG unmute Aux 8 KLANG unmute Aux 9 KLANG unmute Aux 10 KLANG unmute Filing Layout Viewing Viewing	Talkback Input		Aux 5 KLANG unmute									value -
Matrix Outputs Aux 7 KLANG unmute smart keys external @ snapshots other advanced Graphic EQ Aux 8 KLANG unmute Aux 9 KLANG unmute Aux 9 KLANG unmute GPI Image: Command text and text an	Matrix Inputs		Aux 6 KLANG unmute		-	-		1	1			
Graphic EQ Aux 8 KLANG unmute Spice Rack Aux 9 KLANG unmute System Aux 10 KLANG unmute Filing Aux 11 KLANG unmute Layout Aux 12 KLANG unmute Viewing OSC Unu 11	Matrix Outputs		Aux 7 KLANG unmute		smart keys	ext	ternal	0	snapshots	other	adva	anced
System Aux 9 KLANG unmute System Aux 10 KLANG unmute Filing Aux 11 KLANG unmute Layout Aux 12 KLANG unmute Viewing OSC	Graphic EQ		Aux 8 KLANG unmute									
System Aux 10 KLANG unmute Filing Aux 11 KLANG unmute Layout Viewing OSC Device Command Unput	Spice Rack		Aux 9 KLANG unmute			G	21					
Filing Aux 11 KLANG unmute Layout Aux 12 KLANG unmute Viewing OSC 11 11	System		Aux 10 KLANG unmute				÷		Device	Command		
Layout Aux 12 KLANG unmute OSC	Filing		Aux 11 KLANG unmute									
	Layout		Aux 12 KLANG unmute			05	ic.		\sim	\sim		
	Viewing											
	MIDI								1			
MacroOSC IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII	MacroOSC							1				
Signals Over panel	Signals Over panel					MID	PC		~	\sim		
Transport panel	Transport panel							-				
Macros panel	Macros panel					6.		1				
External Control panel	External Control panel					^	stral					

1.3 Quantum 225 のシアターバージョンへの拡張

Quantum225の拡張機能 Theatre ソフトウェアは、DiGiCo シアターコンソールの標準機能を提供し、Pulse アップグレードと同じチャンネル数とプロセッシングを追加します。96 入力チャンネル、48 バス、36Mustard Processing、48Nodal Processing を提供し、Matrix も 24 × 24 に拡張します。

その他の機能

- Quantum852 ハードウエアのチャンネルストリップで EQ バンドを移動すると、選択されたチャンネルでそのバンドが選択されます。
- コンソールのサブネットマスクが Diagnostics に表示されるようになりました。
- フェーダー・バンク・パネルからバンクをクリアする際の確認メッセージ。

1.4 エラーの修正

- Macroders で Matrix センドをキャプチャすると、間違ったセンド番号がキャプチャされていました。
- Aux 名が「St」または「Mo」で始まる場合、フェーダー上のセンドにその名前が表示されない。
- Quantum852の Expanded Control エリアが、コンソールが Unattended モードの時にマルチタッチに反応して いた。
- L-ISA 統合のデフォルト値が正しくなかった。
- 特定のFXパラメーターを調整した後にMustard EQのシェルブを調整すると、オーディオの問題が発生することがあった。
- Quantum7 から Quantum852 へのコンバートの際、ダイナミクスと Spice Rack へのサイドチェイン入力が正し く変換されないことがあった。
- Quantum7からQuantum852へのコンバートの際、フローティングメーターの位置が正しく変換されないことが あった。
- Macro を複製または削除すると、特定のスナップショットによって起動される Macro が変更されることがあった。
- ミラーリングされた Quantum852 エンジンで、ソロバスのフェーダーを下げ切っても OFF にならないことがあった。



ヒビノインターサウンド株式会社

〒105-0022 東京都港区海岸2-7-70 TEL: 03-5419-1560 FAX: 03-5419-1563 E-mail: info@hibino-intersound.co.jp https://www.hibino-intersound.co.jp/

- ●商品写真やイラストは、実際の商品と一部異なる場合があります。
- ●掲載内容は発行時のもので、予告なく変更されることがあります。変更により発生したいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねます。
- ●記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標、または商標です。